京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎
發行所　京城新報社　京城西署西小門通（電話六六三）

論說　學生遊學熱に就て

▲學部當局者の談

韓國學生學事上の方針如何を察するに漸く中央遊學熱に捕され地方より續々として此の京城に蝟集し來るの現象は年一年に其度を高め殆ど底止する所なからんとするの趨勢を示せり、試に學部所管に係る官立師範學校、高等學校、外國語學校及び法學校に於ける本年度入學志願者の情況を觀るに入學志願者は總數四千四百三十名の多數を算し而して此志願者の約三千名は地方の學生なるに鑑して如何に遊學熱の地方學生間に瀰漫せるかを想像するに難からず然も之れ一個の流行病なるや一面に於ては或は教育機關の完全なるべく又一面に於ては政府施設の學校に殺到し或は新學問に憬焉たりし思想の漸次氷解せられたる反映として喜ぶべきものなるが如しと雖も他面に於ては思慮なき血氣の靑年や時務に暗き父兄が一時の流潮に誘はれ都門に學ぶは是れ立身の登龍門に近づくものなり他日歸りて鄕里に時めくに足るべしとの空想に驅られて貴重の健否を顧みず只管功名富貴を僥倖せんとする虛榮的若くは不着實なる希望に出づる者其の多きに居るが如し是れ蓋し韓國現時の情態に於て洵に免れ難き趨勢なるべしと雖も世の風潮は識者の大に注意を要し又當局者の默過する能はざる所たるなり前に述ぶるが如く官立學校入學豫定人員は四校を通じて僅々六百名に過ぎざるを以て自餘の約三千八百名即ち所要人員の六倍強は皆是れ失敗者たるを免れざるものなり斯の如き多數の失敗者は果して如何に其身を處するか皆能く自己の本然を自覺し退て其の鄕里に還り徐ろに學業の前途を圖り又は父祖の家業に從事するかと云ふに多くは然らず一旦志を立てゝ上京したる以上は何物かを獲得せざれば止まずとなし父兄の粒々辛苦に成りし學資を以て物價不廉、生活困難の京城に留り私立學校の內容良否の如何をも撰ばず相率ゐて之に入學するの情況なるが故に是等學生中健全に其身を持し確實に成業を期し得るもの果して幾人かあらん蓋し品性も管ならざるべし況や都會地の常態として坊間種々の誘惑物のあるあり意志健實ならざる靑年は不知不識の間に其惡弊に感染して昔日純朴無垢の靑年たりし者も終に救ふべからざる邪路に陷り甚しきは父祖傳來の資產を蕩盡して妻子を路傍に泣かしむるに至るものなきにあらず是れ寔に寒心すべき事態にして深く意を注ぐべき問題たるなり本部に於ては豫て一般學生の都會傾向を察し殊に近時都會遊學熱の昂上に鑑しては大に注意を拂ひ地方に於ける靑年者をして坐がら適切なる教育を受くるの便宜を與へんことを圖り曩には平壤に高等學校を釜山と仁川の二箇所に實業學校を設置したるも尙本年度に至りて更に實業學校の設置を奬勵し國費を以て其の經費を補助することゝなせり此種實業學校にして今日までに既に認可濟となり新學期より開始するものは建立の全州農林學校、大邱農林學校、平壤農學校、咸興農業學校を始として其他にも晉州、光州、春川、定州、群山、濟州島及び私立實業學校數校あり何公州、海州にも遠からず公設に至らんとす是等學校設置の目的は地方靑年に對し生產的知識を與へ以て將來大に韓國產業の隆昌を企圖するに在るは言を俟たず尙其他各道に於ても一箇人の經營に係る私立學校にして其內容の見るべきもの又尠からざるを以て地方靑年者及び之れが保護者たるもの能く玆に注意し地方人に成るべく鄕里若くは其附近の教育機關に在學せんことを志し徒に中央遊學熱に驅られて前途の方向を誤るなからんことを希望して止まざるなり云々

擴張傳道の好果

既報の如く當地に於ける組合基督教會の擴張傳道は頗る盛況を呈し前報后去十一日日本人商業會議所樓上に於て開會したる婦人大會は會衆無量一百余名の淑女を集め渡瀨氏の家庭と宗教、海老名氏の基督教の女性觀は何れも適切にして深く感動を與へ同夜及十二日夜說敎會は聽衆二百七八十名の多きに達し身動き出來ぬほどの聽衆なるも滿堂水を打たるが如く靜聽して每日續々信仰決心者を出し十二日夜の終會迄に九十余名に達したりと、尙ほ海老名、渡瀨兩牧は十三日午前九時南大門驛より歸韓の途に就けり

●北韓の電鐵と電燈

淸津港有志者の計畫せる電氣事業は初め淸津羅南に電燈點火のみの設計なりしも今回更らに淸津羅南間に電氣鐵道を敷設する事とし過般日本より西川技師を招き其調査實測に着手せしが既に調査も完了したるを以て愈々來る五月より工事に着手する事となり遲くも本年の十一月頃迄には點燈の運びに至るべく又電鐵敷設は來年早々に着手すべく讓通の曉は一人僅々三十錢の賃金にて淸津より羅南に至るを得一般交通に非常の便利を見るべしといふ

●法政新聞發行

十月十一號を以て發行されたり社說韓國に於ける治外法權撤去論は題群既に古りたるも從來論者の說き殘したるもの即ち同紙が韓に於て論ずること明かなり其他名士の論說談話等讀みもの多し若し夫れ「無題錄」「シン猫と艷福」などに至りては鬼や閻魔の面々とヤリ〳〵と廻る輪回の恐ろしさを勉學ならず感ずることとなるべし總体に此種の雜誌に有り勝ちの肩の凝らぬ編輯振りは主筆吉田氏の思つきなるべく高畑膺氏新に入て社長となり經營に力むることなれば同社の發展期して待つべし

地方電報

▲平壤通信

●特產物收穫高　平安南道特有物の隆熙三年度作付反別及び其の收穫高を聞くに棉は八萬三千五百五十九反六十二萬六千五百十五貫、大麻は一万七百十六反二萬七千百三十八貫、苧煙草は二万二千四百十二反十八万九百二十貫、荏は八百八十二反四百四十八石にして棉は价川郡の四十一万四千三百九十貫、祥原郡五万三千百九十貫、平壤郡の二万九千百四十九貫、大麻は寧邊郡の一萬千六百九十六貫、孟山郡の七千七百四十貫、江東郡の二千三百四十八貫、煙草は成川郡一万三千八百五十三貫、价川郡一萬二千八百九十貫、龍岡郡七千五百六十貫、荏は价川郡の八十一石、祥原郡の七十六石、江東郡の六十六石を以て其の主なるものとす

▲高等學校入學志願者　官立平壤高等學校にては十一日及び十二日の兩日を以て入學試驗を執行したるが入學志願者は總數百六十三名にして內二十七名は公私普通學校を卒業せる無試驗入學有資格者その他は普通學校以外の私立學校又は私塾にて學習したるものなり而して入學を許可すべき定員は五十名なるも入學後の中途退學者あるべきを豫想し有資格者の外試驗の內より約五十名位を採用入學せしむる由にて十三日其結果を發表し合格者に對し直ちに入學の手續をなさしむる筈なる今其の入學者總數百六十三名に就て學籍の族所を見るに公私立普通學校を卒業せるものは平南十五平北四咸南四黃海二(?)以外の出身者は平南十なりと云へり

▲三月中の輸出入稅　鎭南浦稅關平壤出張所に於ける三月中の輸出稅は二百二十四圓五十二錢輸入稅は九千六百三十三圓四十三錢又雜收入は保稅倉庫敷料六圓借庫敷料十三錢なりと云ふ

日本銘刀傳

第九十二席　邑井一 講演

法城寺正弘（十二）

重「さう〳〵日外其樣な話を聞いねてもある、大層親孝行の娘だと豫ねて居たよ　花「アラまア憎らしい、親孝行でも何でもありやアしんせん、其時助けて戴いた許でなく五十兩と云ふお金まで下さいまして、何樣に親子が難有かつたか知れやしません」と女心のもう淚をホロ〳〵と流して居る　重「まアまア其樣事は何でも好い、親父が助けた其孝行娘と馴染になつたのも何かの因緣であらう是れ仲好くしやうな　花「アラまア是れから仲好くたつて、今迄だつて仲が好いぢやアありんせんか、ホンに妾は貴方はんに惚れやした　重「旨く言つてらア、遊女に誠があつて堪るものか　花「アレ憎らしい……　重「私に限り二枚舌使はぬなど」と花扇は恩人の伜ではあるし如何にも優しいれかでつて十分に取立られ帶刀を許されて居る、なか〳〵の金持だ、重太郎は持つて生れた好男子が病付となつてそろ〳〵放蕩に身を持崩すやうになり、父の重左衞門は大層に心配して居る、スルト吉原に大火事があつて、廓內は悉く燒け三浦屋も丸燒けとなつた、四郎左衞門は橋場の寮へ立退いて居たが老ひの身の上に今度の災難、夫れが元になつた遂に死にました、花扇はまだ產後で腰が立たない、惡い時には惡いもので番頭が大枚金を使い込む到頭三浦屋も持切れなくて店を二千兩で人手に渡した、花扇は生れし男の子を重次郎と名付けて向島の一軒家を假りて夫



ると　小「ヤーイ〳〵島田の重公ヤイ、手前は女郎の子だヤーイ　小「女郎の子だ、女郎の汚ねえ餓鬼ヤーイ」と大勢に虐められるので重次郎はいつも、メソ〳〵泣いて歸つて來る、親父の方は流石に男だ、氣にもせずに笑つて居るが、母親の方は胸を痛めて居る「可憫想に何も知らぬ小供迄が此母親が賤しい勤をしたので、世間の子供から馬鹿にされるとは何たる因果のことだらう假令賤しい勤めはしても心までは腐りはせぬ」と愚痴を吐しますので重太郎が「まア〳〵好い〳〵其樣に心配するにやア及ばない、小供同志なんてねものは詰らぬことを言つて面白がつて

ゐると、女の方から實を盡す、さうなると重太郎も惡くないから繁々通つて來る、其內何の因果か花扇が懷姙した、遊女が子をはらむと云ふのは何だか變なものだ、三浦屋も大分花扇のれ蔭で身上が好くなつたから、花扇を橋場の寮へ送つて養生させる、十月無事に臨月つて生んだが、玉のやうな男の子、重太郎にソックリだ、花扇も島田さんの子に相違ないと云ふ、重太郎も俺の子であらうと承認した、一體此の島田重太郎の家は仙臺の藩士ではありますが元はと云へば刀鍛冶だ、島田近江守と云つて代々刀鍛冶、重左衞門の代にな

れへ住んで居る、重太郎は其後堅くなつたので親父も安心をして、惚れた同志なら仕方がないさ、花扇のれ花を我家へ入れて夫婦にしてやつた、れ花重太郎の悅び一ト方ならず、夫婦して親に孝を盡くす、重左衞門も悅んで流石に孝行娘と名を取つただけに、賤しい稼業をしても泥水に染らぬとホク〳〵悅び遂に七十九歲で死なりました、重次郎も追々生長するが何しろ養籠の頃ですから、士が女郎を女房にして女郎に子が出來た、其子が後繼ぎだと云ふので世間の評判が好くない、近所の子供迄が馬鹿にして、表へ遊びに出

居るのだ、小供の言ふことなど取上げなさんな　花「イエ此子が大きくなつてから當家の後目を相續出來れば宜うございますが若し才智の足らぬものであつたら、夫こそ彼は女郎の子だからと世間から後指をさゝれやせんかと其事のみが心配でございます所が何うも重次郎の樣子を見ますると、少し茫然して居ります、何うしたものが敏捷りません、萬更馬鹿でもございませんが何うもチト他の子とは後れて居るやうでございますから、夫が心配で〳〵なりません　重「何うも馬鹿の子の出來たのも運なれば仕方がない」

東京電報

▲淸國觀光團の到着　淸國觀光團一行は本日午前十一時新橋驛着入京停車場には官民及淸國留學生三千余名出迎へたり(十四日)

▲新設の帝國領事館　外務省は四月十二日より阿弗利加ケープタウンに帝國名譽領事館を設置せり(同)

▲萬國行政事務會議　本年白耳義國ブラッセル府に開かるべき萬國行政事務會議にては諸般の行政事務に關する意見を交換する筈にて我國よりは田所文部省參事官參列する筈にて目下滯歐中の中川內務省書記官も列席すべし(同上)

▲競馬會社と保證金　本期議會を通過したる全國各競馬會社損失保證金は總額十六萬圓にして馬政局に於ては各會社に就き正確に設立に要したる費用を調査中にて五月中に各會社に交付することとなるべく瀕死の競馬會社は之れによりて蘇生するを得べきか(同上)

▲立憲國民黨の黨是　國民黨は來る五月迄に東北、北陸各地の遊說を了り農業時期中遊說を中止し政務調査に着手し從來の方針を改め調査したる諸問題は凡て之を黨議として議會に臨み大に政黨の面目を一新せん抱負なりと聞く(同上)

▲墺皇帝と伏見宮　墺國皇帝陛下には伏見宮殿下にステフカン大勳章を贈呈せられたり之れに對し我が天皇陛下には鄭重なる謝電を發せられたり(十五日)

▲曾禰統監と時局　寺內陸相が曾禰統監往訪後桂小村の兩相と密議せるは少からず世人の注目を惹けり此に就き曾禰子が病氣不良の爲め寺內陸相に轉任すべく其の後任に關する打合せの爲めなりとの說盛んなるが確かなる筋より漏れたる消息に依れば寺內子の往訪は時局に關するものなりと然も統監の健康は終に自ら大局の解決に任ずる能はざるべしと一般に觀測し居れり(同上)

▲地方官會議の日割　本日首相官邸に地方長官會議開會せられ桂首相の訓示演說あり終つて午餐會開かれたるが明日以後の日割左の如し(同上)

十六日　午前九時半より內務省會議
十七日　大隈伯招待會
十八日　內務省に於て會議午後華族會館に於て司法省晩餐會
十九日　午前[illegible]省會議午後六時より內相宴會
二十日　午前外務省に於て會議午後六時より外相晩餐會
廿一日　午前陸軍省に於て會議午後勸業銀行晩餐會
廿二日　午前上野實業品博覽會招待
廿三日　午後文部農商務會議午後文相富士見接見會
廿四日　午前通信省に於て會議晩餐會

▲滿州穀物と歐州　滿州産穀物にして每年歐州方面に輸出せらるゝ豆類輸出高は年々增加し千九百七年より同九年までの統計を見るに滿州産穀物にして滿鐵を經て海路歐州に輸出せられたるもの千九百七年に二百八十萬[illegible]には千四百万石に增加し[illegible]十萬石同九年には七百六[illegible]するに至りたるが之れ實に露國貿易の發展に注目するに値すべし

▲淸觀光團の旅程　淸國觀光團は豫定の旅行日程を變更し來る二十七日まで滯京し其の間に橫須賀鎌倉等を參觀し二十八日午前十一時新橋發大阪名古屋に赴き五月三日名古屋發京都を觀光し六日より十二日まで奈良、大阪を見物し夫れより神戸宮島を經て十六日門司着枝光製鐵所見物十七日午後解纜十九日大連に歸着すべし(同上)

▲金融機關と資金　農商務省の調査に係る三月末現在各種銀行數は二千百七十九資本金六億八千百六十二萬余圓にして之れを二月末に比すれば資本金に於て七十六萬五千圓を增加したり(同上)

▲新競馬會の內情　新競馬會社組織に就ては馬政局に於て東京競馬會社長加納子爵及日本競馬會社長岡田實德の兩氏に內命を下したる所ありて[illegible]るものにして或る意味に於て政府設立と同樣なり(十五日)

▲川村大將の出發　歐米各國に差遣を命ぜられたる川村大將は橫濱解纜の北野丸にて渡歐の途に就けり(同上)

▲澁澤男と女優養成　澁澤男爵は高齢に及びたるを以て事務節約の趣旨より帝國劇場株式會社に辭表を提出したるが同會社は他の會社と異り體面上位置名望の高き人の手に依り經營するの必要あるを以て大隈伯の懇請に依りて留任に決し尙女優養成の目的にて設立したる技藝學校の校長となれり(同上)

歐洲電報

▲墺國の大飛行機　墺國陸軍省は個人の義捐金を以て二個の大飛行機を建造せんとす(十五日)

▲露大使と墺外相　墺國駐剳露國大使ウルコフ公は墺露紛爭解決後再び墺國外相エーレンタール伯を訪問したり(同上)

地方電報

▲第二艦隊の入港　島村中將の率ゆる第二艦隊八隻、沖の島、見島、淀の四艦は本日午後一時入港す將校一同は午後六時より官民の大歡迎會に臨む筈なり同艦隊は十七日解纜すべし(十五日鎭海灣特電)

雜報

▲櫻田烈士五十年祭　櫻田烈士五十年祭は既報の如く土方伯祭典總裁に三好陸軍中將を副總裁に長谷場衆議院議長を委員長に田中伯外貴衆兩院議員並に朝野知名の士四十餘名祭典委員となり十二日午前十時より靖國神社にいて擧行したり定刻に至るや神職並に祭典總裁副總裁、委員長、各委員、遺族拜殿に着席淸祓に次で獻饌、祝詞、禮拜ありこのとき久邇宮、竹田宮、北白川宮、朝香宮、閑院宮各殿下御馬車を召させて御參着、田中土方兩伯並に祭員一同の奉迎を受けさせられ御拜相成り次で正副總裁委員長委員主催者等は玉串を捧げ各關係者一同本殿階上に登り禮拜をなし右にて式を終り折柄の微風に櫻花片々として散り行く樣に烈士の面影を偲びつゝ各殿下には田中伯爵の御案內にて偕行社に成らせられ園內にて催ふさせられたる種々の餘興を御觀覽あり至極御滿足にて御退出相成りたり當日席上水戸出身の橫綱常陸山が羽織袴にて種々斡旋し居たると外國人の參拜ありしとは特に人目を惹きたりと云ふ

東京電報

▲統監辭職の號外　萬朝報は曾禰統監は對韓政策に關し桂內閣と意見合はず今朝辭表を提出せりとの號外を發したるが當局者は之れを無根の浮言として其發賣頒布を禁止せり(十五日)

韓人と裁判所觀
(中村判事の談片)

中村地方裁判所長を訪ひ韓人の新裁判制度に對する概觀を叩くに氏の語る處左の如し

▲勝者即不正　古來の慣行として韓人間の係爭事件には賄賂請托の必ず之に伴ふは何人も之を知る處なり故に賄賂の多寡請托因緣の厚薄は所謂勝敗の決の別るゝ處にして勝者即不正の聯想は最近まで彼等の腦裏に刻まれし觀念なり然るに吾が裁判制度は何人の前にも之を公開し斷案必ず其證據を明かにするを以て如上慣行的聯想は全然掃去せられ孰れも其公明正大に心服して一人の能く無事を叫ぶものなきに到れるは事實なり

▲傍聽に熱心　傍聽人は之を日本の裁判所に比するに寧ろ多き傾向あるを見る而して其系統は多く事件に關係あるもののみに屬し局外者の來聽は餘程の大事件に非ざれば概して稀なるが如し蓋し彼等の係爭事件には多數の利害關係者伴隨せる爲めにして斯く熱心を極むるものならんか

▲一審に不甘　韓人は一般に健訟の習癖あるが如く之を聞けるも事實は必ずしも然らざるが如し現に地方に在りては一審直ちに確定裁判となれる例少からざるのみならず和解事を決するもの多きが如し唯だ京城のみは一審にでは見角服從せず控訴を好むの傾向あり是れ即ち周圍の關係彼等を誘致するものなるべし

▲第三者勢力　韓人は個人間の爭鬪に就ても是非を傍觀の第三者に訴ゆるの風あり此性癖は公判廷の審理に於ても往々演出せらる然れば第三者の仲裁は比較的勢力を有し之に依りて和解せらるゝもの尠からず殊に面白き事實を見たるは地方にして裁判所の[illegible]が開設を耳にして直ちに和解せられし事是なり思ふに之は新裁判の嚴正なる威力に抗すべからざるを覺り鋒を避けて避けるものなるべし云々

●會計檢查官の一行　會計檢查官古川浩濟氏は眞鍋、柳の書記を隨へ十三日夜入京巴城館に投宿十四日統監府司法廳、鐵道管理局等を訪問し檢查に關する打合せを爲し本日より統監府の會計檢查に着手せり統監府終了後は司法廳、鐵道管理局、東洋拓殖會社等の檢查を爲し當地結了後は平壤及新義州の各地方に向ふ豫定にして滯在日數は約六十余日なりと因に不日入京すべき中村檢查官一行は直に通信官署の檢查を執行する由なり

●警察巡閱規則審議　內部にては近々警察巡閱規則を發布すべく目下審議中なり該規則制定の趣旨は每年一回警視廳は第一課長各道は警察部長親しく管內を巡回して警察機關各部分に於ける規律服務處務及民衆の所感狀況其他百般の警察事務に關し其實績を實地的に觀察檢閱し警察事務の發達進歩を計り併せて民情風俗を研究するものにして之が實施を見るに到らば斯行政の刷振上多大の貢獻あるべし

●地方費と道路補助　京畿道平澤安城間は交通最も頻繁にして此間の道路改修は急務中の急務なりとて觀察道にては地方費を以て之れが施工を計畫したるが其工費を計算すれば勞役を地方民の供給に待つも二萬餘圓の巨額を要するを以て內部へ相當補助方を要請し來れり內部にても其必要を認め審議の結果補助金交付に決したれば近々着手すべしと

●谷田司令官の來期　既報憲兵司令官谷田中將來韓の用件を聞くに同中將は韓國を巡視する筈にて單に韓國のみに出張を命ぜられたるにはあらず而して滿州の巡視を經へて韓國に來るは五月十二日頃なるべしと

經濟小言

▲偉人熊澤蕃山の二百二十年祭典頃日下總古河町に於て擧行せらる、會するもの蕃山と緣故ある池田舊岡山藩主及び蕃山崇拜の學者紳士等多數にて極めて盛大なりしと。

▲熊澤蕃山は淨瑠璃朝顔日記中の駒澤次郎左衞門なり、秋月の娘深雪に慕はれたる有情の武士なり、其陽明學に於ける造詣極めて深く[illegible]二宮尊德翁と同じく經學を基礎として經濟學說中國用經濟學を創めたる國士なり、故に蕃山は單に學者としても我國經濟學史上に其名を逸すべからざるの士なり。

▲況んや彼は單に學究として終らず、實に一種の經世眼を有し岡山藩主池田侯の爲に治水と殖林とを行つて藩の經濟財政を豐かならしむることに成効せり、山陽線の旅客池田侯の舊領地を過ぐるとき凡そ十分間每に田地より高き川と完全なる堤防とを見るべし、池田侯の石高に比して割合に富みたるも岡山縣が現在他縣に比して殷富なるも畢竟は蕃山其人の盡力の結果なり。

▲ロードクロマアはナイル河を整理して埃及致富の基を拓く。蕃山の岡山に施せるところと其手段に於て同じ現時半島に要するところの人物は實に一熊澤蕃山なり、記者蕃山の韓土に現はれんことを希ふや切なり。

▲目下來城中のロビンソン氏基督教青年會に於て『工業と教育との價値なる』有益なる講話を韓青年の爲になしたる由、記者は其勞を謝せずんばあらず、思ふに唯り米人のみならず邦人の有識者も時々壇上に立つて此種の講話を爲すに於ては韓青年を利するところ多かるべし、但し曾禰統監式の『物を安く喰べさせる』講釋は韓人の前に於ては禁物なり。

●大梵鐘の鑄造計畫　侍天教本部に於ては三千六百斤の梵鐘を鑄造すべき目的を以て目下各地方の教徒より寄附金の募集中なりと云ふ

●第十三回茶話會　內部警務局及警視廳員は十六日午後一時より警察官練習所に於て第十三回茶話會を開く右は不日宮城縣事務官に榮轉の噂ある岩井保安課長の送別をも意味するものゝ由にて席上松井局長、岩井警視及目下入京中なる湯淺中南、障威北の兩警察部長の講演ある筈なれば定めて既往將來の警察に關し頗る有益なるものあらん

●司法廳の運動會　司法廳に於ては來る二十四日日曜を利用して司法廳裁判所監獄職員一同光化門外慶熙宮に於て春季運動會を盛大に擧行する由なり

●ロ氏の長官訪問　滯京中なるロビンソン氏は十五日午前十一時石塚總務長官事務取扱を統監府に訪問したりと

●三好氏母堂葬儀　三好和三郎氏母堂つた子の葬儀は十四日午後三時より南山本願寺等に於て執行されたり三好氏は大阪出身なだけに其儀式は凡て大阪式にして親戚の人々は何れも上下を着け婦人は白無垢を纏ひ頗る古式を極め其他大阪人會寄贈の提灯數十張或は旗、放鳥等準備頗る整ひ會葬者又五百名以上にして近來になき盛葬なりしと云ふ

米國と韓國關稅

米國政府は韓國に對し米國最低の稅率を適用すべしとのことは東電に依り既に報導し置くなるが今其の內容に付米國大統領の布告を見るに前略韓國政府が合[illegible]生產物の輸入に關し其稅率の不當なる差異を除却し以て合衆國と同等たることを認めたる時は本大統領は一千九百零九年八月五日の決議案に基きて稅率に關する第一條の最低稅率を施行することを布告す但此布告の效力は既往に遡及せず又千九百十年三月三十一日以降韓國政府が米國の商業上に關し差異ある現在の規程等の變更せられざる前に施行せず

金融組合の會議

地方金融組合理事會議は豫定の如く十五日より廣通館樓上に開會したるが參會者は度支部より荒井次官、藤原及河內山の兩書記官、李理財局長、長谷川囑託、伊藤主事を始め各財務監督局理財課主任七名組合理事三十名にて開會を爲し荒井次官の訓示演說に次で諮問事項の議事に移り午後四時散會したり

●東拓社と所在市民　東洋拓殖會社は其本社を現本社傍に新築するに決し同社正門より黃金町角に達する一帶の地所家屋を買收し既に取毀しに掛かり居れるが其買收の手段たる頗る陋劣を極め某官商の手を經て最も秘密に之を行へる爲め何人も之を知る能はず實渡後始めて夫れと氣付きたるより何れも其不德を憫み同社の陋劣手段を憤らざるはなし然るに又建築の設計仕樣等を漏れ聞くに彼の白耳義領事館の如く街路に沿いて一大煉瓦塀を築き廻はし將來有望なる可き明治町をして監獄所在地の如き不快感を起さしむる筈なる爲め同町所在市民等は非常に激昂し如何に大地主を以て任ずる東拓とは言へ斯くては市街の体裁を沒却し將來の繁華に多大の影響あるべしとて益々事實を確めたる上は聯合して抗議を申込まんと寄り〱協議中なりと(電通)

●滊車博覽會發會式　仁川朝鮮新聞社の主催に係る韓國全[illegible]滊車博覽會は十五日[illegible]驛に於て發會式を擧げたるが出品陳列車は三輛にして出品軒數は三十五商店に及び何れも精巧なる意匠の下に陳列しあり斯くて參觀者は朝來引きも切らず初日に於て一伏成功の端緖を得つゝ同日午後九時過同列車は南大門に向ひたり

●東拓社と郡守同行　東洋拓殖會社にては今回計畫の農事視察團中に關係最も深き郡守數名を加ふべく當局者と交涉中なるが當局者に於ては勿論異議なき由なれば夫れ〱選定の上同行するに到るべしと云ふ

●ロビンソン氏出發　ルーズヴエルト氏令妹ロビンソン氏夫妻は十三日出發渡日の豫定なりしも夫人病氣の爲め出發見合せ中の處愈本復せしを以て十六日午前出發の筈

●米總領事長官訪問　十五日午前京城駐在米國總領事代理ヴールト氏は石塚長官を統監府に訪問す

●工業傳習所卒業式　來る十九日午后二時官立工業傳習所に於て第二回卒業證書授與式を擧行の筈

●村田中尉の巡視　憲兵分隊附村田中尉は十六日より平山、開城、楊州、鐵原の所管分遣所十五箇所を巡視の筈

●宮尾[illegible]の巡視　憲兵隊本部附二等軍[illegible]尾貫吾氏は來川地方衞生狀況視察[illegible]二週間の豫定にて十五日出發

●庵原課長の歸京　南海岸巡視中の庵原漁政課長は十五日三千浦を出發し統營附近を視察し十六七日頃歸京すと

●岩井警視の東上　內部保安課長岩井慶太郞氏は十七八日頃東上すべしと

●大內代議士入京　衆議院議員大內暢三氏は十四日京城ホテルに投宿せり

●久治米技師入京　農商工部模範場長同氏は十四日入京浦尾旅館投宿

●海部報知子飯釜　入京中の報知新聞釜山支局長海部謙氏は十六日朝飯釜

遊廓問題眞相(續)
(本社龍山支局報)

龍山　阪敏明氏を訪ふ氏は民團議員として常に眞率に公平なる見解を誤らざる人なり之れ氏の位置が十八銀行龍山出張所主任として龍山に在住せる爲めに氏の周圍に對する私的關係が氏を累すること勘きにも因るならん阪氏曰く予は此の問題に對し餘り深き注意を拂はざりし[illegible]の正鬪より見て[illegible]の必要無からんと思考したり因て此の意見を民會に於て發表したりしなれども龍山の現狀が遊廓設置の訴願を容るゝを可とすることを爾後の調査に依て知るを得たるが故に予が信ずる處の理論は理論として擱りに遊廓地撰定を是認せんと欲す而かも予は此の問題に對し最初より甚だ深き注意を拂はざりしことを悔ゐず又到底會社對大久保民長及勸農會社對畑彌右衞門氏との私的關係と知悟せざりしをも悔ゐず予が心外の措置なり殊に決議案を[illegible]の感に禁へざるは民長が民會に對する毋し旨を民會に對して演述したる其の意義の如きは實に民會の面目を蹂躙したるものにして言語同斷の擧動と云ふべしとて流石に濃厚なる氏も眉目の間に許すまじき色灰見へたり

記者は明日の紙上に某議員の所說を揭げ併せて民長が內部事務官たらんとするの意趣あるが爲めに龍山の事情に對しては甚だ冷淡なりてふ世評の[illegible]らるゝ理由等を記して一先づ筆を擱き事の成行きを監視せんとす

▲治外法權▼

大隈伯曰く「近來韓半島の處分に關し又々頭痛を病む者生じたるが如し然れども半島統治の責任ある者本國に歸つて半年位りも午睡を貪り居る如き有様にては如何に其の制度を革むるも治績の擧るべき理由なく所謂百年河淸を俟つに等しからん▲思ふに同地の統治は今や名目若くは制度の問題にあらずして人の問題なり實行の問題なり病氣ならば速に辭職せしめ若し辭職せずんば之を免職する何の難き事か之あらん▲余をして今日の狀態を評せしめば統監とは實は學問の意味なるべし當然爲すべき事を爲さずして徒らに名を革むるに焦慮する是れ小人の爲す事のみ斷じて大帝國の爲すべき事にあらず」云々と口に適所を持たぬ隈伯さへ云へ隨分猛烈なことを言はれたもの哉▲曩きに四十七士の行爲を罪惡呼ばり爲た加藤弘之博士は今又櫻田烈士五十年祭の事に反對を唱へて居る、同博士の言ふ處は一體に正直過ぎるのだ、敵討や、暗殺を奨勵するのでは無いが日本人は此の精神が離れては駄目だ、殊に當時は一層其必要があつたのだ▲東拓社は明治町に長塀を建て廻はすそうだ、支那領事館の長塀だけでもウ澤山だ此上ツー長々しく建て廻されては明治町の繁昌は滅茶〱だ▲花咲き鳥囀づるの好時節となつた、何々官廳員の探險、何々會社の運動會と隨分愉快な催しが澤山起るが中にも商業朝鮮日報の實業家運動會は最も其愉快なるものである、吾人切に成効を祈る。

（長沙暴動）長沙に於て貧民暴動を起し官衙及外國領事館を破壞し爲に支那市街は商業を停止せり

海軍省の會議 相及海軍省の各部長は昨日秘密會議を開き來年度に於て海軍擴張に關し協議せり（以上十五日）

名妓洗髪のお妻（九）

▽叔父から國許へ電報
▽親戚一同の吃驚仰天

其の平井桃水さんの妹のおかうさんが何うして私を見付けたかと云へば夫れは斯うなんです、何んでもおかうさんが小供を連れて、銀座の勸工場へ行つての歸りださうでした、忘れやうたつて忘れられない、あんなキマリの惡かつた事といふものは一生に二度とはない顔から火の出るとはあんな時の事をいふのでせうね、さう私は紫矢筈乘白の襟を斯う取り、思切つて根の高い文金姿で、菊よしのお座敷からの歸り道フト土橋の方を見ると、前方から小供を連れて來るのが前云つたおかうさんなんです、ハツと思つて顔を避したものゝ、もう遲いわ、おかうさんはおかうさんで、怪訝な顔をして私が行つて了まつた跡を、呪と土橋の上に根が生えたやうに棒立に立つてゐましたが、おかうさんは其まゝ家へ走つて歸つて、斯う〳〵だ、姿こそ違つてゐるがおつぎさんに違ひがない、藝者になつてゐますよといふので、平井のお叔父さんも驚いて、其翌る日でした、濱の家から御座敷が掛つて私が行つて見ると、御一座は誰れ〳〵か見る事も出來ませんでしたが一座の中に平井の叔父さんがゐるのですもの、驚いちやつて今晩のこの字が口から出るか出ないに一散にもの廊下を何う驅けたか自分にも分らないで、桝田屋へ呼吸を切つて飛んで歸つて了ひました▲濱の家からは引切り無しにお使が來るのですが、私が何うして藝者姿で叔父さんに逢はれますものか、何んと云つても二度と其晩は濱の家へ行きませんでした、叔父さんはおかうさんの話を聞いて、マサカと思つてゐたのださうですが、余の爲めに濱の家から斯れ斯れと私の樣子を話して口を掛けた處がヒヨックリ私が顔を出したものですからもうおつぎに違ひないといふので、濱の家の其御座敷から直に國の叔父に當る高尾蠟炬に電報を打つといふ騷ぎ、對州の方ぢやおつぎが藝者になるなどは怪しからん、早速國へ呼戻せと親戚一同の話合で、其高尾が直ぐに上京したものです、國の方ぢやおよねとの關係は餘りに知らないので、蠟炬が新橋に着くと其まゝ、近くだといふので之れが烏森の吾妻屋に宿を取つたものです、吾妻屋は私が抱へられてる桝田屋の家でやつてるのでせう、因果ですね。

梅の家樓主の疊屋職

▽女を拐つて大目玉

福岡縣人當時本町七丁目疊職森山金吉方雇人永末貫治（二五）同上宮崎縣人今村市倉（二一）同上和歌山縣人山田平七（二六）の三人は日がな毎日疊に計りグリ〳〵は二度とはない光陰重ねて來らずとは……

女振り

金次郎氏夫人 林田はな子